

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月12日

【評価実施概要】

事業所番号	872501002		
法人名	株式会社 豊潤会		
事業所名	グループホーム ひより		
所在地	常陸大宮市下桜3526 (電話) 0295-58-2156		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年4月24日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】 (平成20年4月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	2人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造建築平屋建 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年4月24日現在)

利用者人数	9名	男性	6名	女性	3名
要介護1	0	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 80 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	常陸大宮市国民健康保険美和診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「入居者の自分らしさと可能性をいつでも発揮できるよう随時不安を取り除きます」の理念をもとに実践に取り組んでいる。
 管理者は利用者が安心して暮らせるために地元医療機関と連携し、昼夜を問わず医師や看護師の指示を仰ぐとともに、適切な医療が受けられるよう体制を整えている。
 職員は利用者の生活歴を把握し、外出や楽しみごと、家庭菜園など利用者に応じた役割や楽しむことができる場面づくりをしている。
 居室は利用者の馴染みの物を置き、共用空間は利用者が居心地良く暮らせるよう環境づくりに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の課題について管理者や全職員で話し合い、外部研修を受講できる体制づくりや事故報告書を作成するとともに、再発防止策として死角にミラーを設置するなど改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を理解し、全職員で自己評価に取り組む体制づくりが望まれる。 外部評価の結果については全職員でミーティング等で話し合い、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の委員を情報提供票に明示し2ヵ月に1度開催するとともに、会議録を作成している。 会議ではホームの運営状況を説明するとともに、委員と積極的に意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。 職員は市の関係部署を訪問し情報交換を行うとともに、事業所への理解や支援の要請に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に第三者機関も含めた苦情・相談に関する窓口機関を明示するとともに、家族等に説明している。 意見・苦情等があった場合はミーティングで検討し、ホームの運営に反映させている。 訪問が少ない家族の意見が反映できるよう、アンケートの実施や意見箱の設置等の取り組みを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接する小学校と交流はあるが、自治会や老人会、地域行事等へ参加するまでには至っていないので、地域の一員として地元の祭りや行事等に積極的に参加し、地域の人々と交流していく取り組みを期待する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「入居者の自分らしさと可能性をいつでも発揮できるよう随時不安を取り除きます」というホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時や日々のかかわりの中でも理念について話し合い実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する小学校と交流はあるが、自治会や老人会、地域行事等へ参加するまでには至っていない。	○	地域の一員として地元の祭りや行事等に積極的に参加し、地域の人々と交流していく取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の課題について全職員で話し合い、外部研修を受講できる体制づくりや事故報告書を作成するとともに、再発防止策として死角にミラーをつけるなど改善に取り組んでいる。 自己評価は一部の職員で作成され、全職員で取り組むまでには至っていない。	○	自己評価の意義や目的を全職員に周知するとともに、全職員で自己評価に取り組む体制づくりが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員を情報提供票に明示し2ヶ月に1度開催するとともに、会議録を作成している。 会議はホームの運営状況を説明するとともに、委員と積極的に意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は市の関係部署を訪問し情報交換を行うとともに、事業所への理解や支援の要請に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は家族等の来訪時や電話にて利用者の現状報告をしている。 金銭管理は金銭出納帳に支払い状況を記録するとともに、毎月の利用料請求時に領収書とともに家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者機関も含めた苦情・相談に関する窓口機関を明示するとともに、家族等に説明している。 意見・苦情等があった場合はミーティングで検討し、ホームの運営に反映させている。	○	訪問が少ない家族の意見が反映できるよう、アンケートの実施や意見箱の設置等の取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現時点で職員の異動や離職はないが、状況に応じて利用者や家族等に説明し、不安や不満を取り除くケアを心がけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の運営規定に研修の機会を設けるよう明示している。 職員は採用時研修・随時研修を受講し、研修報告書を作成して全職員で共有する体制になっている。 外部研修も積極的に受講させる機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター家族の会への参加や市内のグループホーム連絡協議会に入会するとともに、講演会に参加して情報交換を行い、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族等に見学にきてもらい、利用に向けた話し合いを行っている。 また、お試し期間を設け日帰り体験・宿泊体験などにより、利用者がホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握しており、食事の準備や自家菜園での野菜作りなど、利用者の得意なこと（種まき・肥料のやり方）などを教えてもらいながら、利用者とともに生き生きと生活できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が今までと同じ暮らしができるよう希望を聞き、牛乳や新聞を取るなどの支援をしている。 また、職員は利用者との日々の関わりの中で言葉や表情・動作等から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意見を聞くとともに、日々の生活の中で気づいた点を職員が取りまとめ、カンファレンスを開いて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の要望に応じて、職員と話し合いをもち、新たな介護計画の作成や定期的な計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診介助や看護師による24時間連絡が可能である。 また、家族等の宿泊や食事などの提供を行っている。 家族は決められた面会時間以外でも利用者に会うことができる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望により、主治医を決めている。 また、協力医による往診を受けられるほか、緊急時には昼夜を問わず医師や看護師の指示を仰ぐことにより、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における医療処置について主治医から経過や状態を聞き、家族等と方針や内容を話し合っている。 また、看取りに関する指針を作成し、利用時に説明するとともに、状態によっては依頼書を提出してもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライドやプライバシーを損なわないよう、排泄介助や入浴介助に十分配慮し支援している。 また、書類等は事務所に保管し施錠のうえ取扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの生活のリズムに配慮するとともに、入浴や散歩、買い物など利用者のペースで生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者に食事の準備を手伝ってもらったり、利用者の好みに合わせたメニューに変えたりしている。 職員は利用者と食卓を囲み、サポートしながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回1人ずつの入浴支援をしており、回数などは利用者の希望にそって決めている。 また、福祉用具を準備し安心して入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、食事の準備や自家菜園、書道など利用者の役割や楽しみごとができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事として毎月ドライブや花見にでかけるほか、天気の良い日は職員とともにゴミ出しを行ったり散歩や買い物、外食するなど利用者の気分転換を図れるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており、玄関や居室は施錠していない。 外出を察知した場合は声をかけ、一緒に外出するなど安全面に配慮するとともに、利用者が自由に暮らせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年1回行っているが、災害対策として非常用食糧の備蓄や地域の人々に協力が得られる働きかけをするまでには至っていない。	○	事業所のみでの避難訓練ばかりではなく、地域の方々の協力が得られるよう働きかけることを提案する。 また、災害対策として非常用食糧や物品などを備蓄することを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体法人のメニューを参考にバランスよく提供している。 職員は利用者の水分量・摂取量等をおおよそ把握している。 また、利用者の身体機能に応じた刻み食・お粥食などを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食道、廊下等は広く明るく、陽射はカーテンで適切に調節している。 ホールにソファを置き、食事を準備する音や匂いが流れ、テラスからは庭や畑が見える。 五感刺激に配慮するとともに、居心地良い暮らしができるよう支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者の使い馴れた小物・椅子・テレビ・洋服等を持ち込み、利用者が居心地良くつろげる場所づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。